

## ゼミを思ふ

第7期 OB 岸本 啓太郎

自分にとってはまさに人生が劇的に変化した2012年が終わってから、早一月が経とうとしている中、OB会誌を書いています。というよりも、某菊盛に依頼されたOB会誌の締切が今日なので、何とか文章をひねり出している状態です。しかし、決してサボっていたわけではなく、「もう自分も（一応）社会人だし、多少は立派な文章を書かないと」などと気張っていたら、500文字くらいで躓き、今に至ります。そんな切羽詰まった中で、はてさて何を書こうかと、風呂に入りながら考えていたら、今年卒業する9期生のことが思い浮かんだので、自分から見た9期生とゼミに関して書いてみようと思います。

自分たちの代から始まった英論（英語論文執筆プロジェクト（という正式名称を初めて知りました））ですが、先日、9期の後輩から、9期英論チームが世界で最も権威ある学会AMAで発表することが決まったとの報告をもらいました。自分たちの代も、（手前味噌ですが）素晴らしい業績を残したと思っていたのですが、8期インゼミ兼英論がより素晴らしい業績を残し、そして9期生は更にそれらを上回る結果を出すまでのプロジェクトになったことに、非常に感動しました。思い返せば、2009年の春合宿、悪ノリとしか思えないテンションで英論チームが結成され、日浦の機転一発でテーマが決まり（以下略）の英論が、ここまでになるとは思いもしませんでした。また、先日ゼミの納会に顔を出したとき、同期の菊盛も、AMAでeクチコミに関する研究を発表することが決まったと聞き、更に感動したのは言うまでもありません。

社会に出てから、某Tゼミ出身者や、他大のいわゆる「エグゼミ」出身者たちと会う機会が少なくなく、彼らと話すと、ほぼ例外なく、自分たちのゼミがどれだけ勉強するゼミだったか、どんな賞をもらってきたか、どれだけすごい活動をしてきたかを滔々と話します。しかし、私は小野ゼミのことを話したりしません。なぜなら、そういう話を聞いたあとに、私が所属していたゼミがどれだけすごいかを、裏でひしひしと囁み締めるためです。私は決して能があるわけではありませんが、少なくとも「能ある鷹は爪を隠す」という諺を存じており、かつ非常にイヤなやつなので、むやみに自慢したりしないようにしています。というのは全くの冗談で、実際のところは、小野先生をはじめ、大学院の先輩諸氏を見ていると、本当にすごい人ほど、自分自身の業績をむやみに曝け出したりするようなことはしておらず、私自身も少しでも先生、先輩諸氏の姿勢を見習えればと思い、口を慎んでおります。

しかし、このようなゼミに所属できたことを誇らしく思う気持ちも年々強くなっています。今年も優秀な後輩が入ってきそうだとのことと、そんな優秀な後輩たちにdisられないよう、私も気を引き締め、精進してまいります。そして、来年はもう少しまとめた文章を書きたいと思います。

1月末日 凍えるように寒い自室にて同僚と共に。